

原 著

透析患者における唾液分泌量低下と健康関連 Quality of Life の関連

有永 靖¹⁾ 岩崎 正則¹⁾ 栗野 秀慈²⁾ 伊藤加代子³⁾
吉田 明弘⁴⁾ 角田 聡子¹⁾ 邵 仁浩¹⁾ 安細 敏弘¹⁾

概要：透析患者では唾液量分泌低下が高頻度で認められる。本横断研究では透析患者における唾液分泌量低下と健康関連 quality of life (HRQOL) の関連を、包括的 HRQOL 尺度 MOS Short-Form 36-Item Health Survey (SF-36) を用いて検討した。2008 年 5 月から 7 月に透析専門病院にて血液透析治療を受けた患者 347 名中、本研究への同意が得られ、データの揃った 212 名を対象とした。安静時唾液分泌量が 0.1 ml/min 以下かつ刺激時唾液分泌量が 1.0 ml/min 以下の者を唾液分泌量低下と定義した。唾液分泌量低下が SF-36 のサマリースコア、および下位尺度偏差得点に与える影響について一般線形モデルを用いて評価した。年齢、性別、透析原疾患、透析期間、現病歴、既往歴、body mass index、喫煙状況、飲酒状況を共変量として用いた。唾液分泌量低下と定義された者は 103 名、全体の 48.6% であった。唾液分泌量低下と SF-36 の下位尺度偏差得点である身体機能、身体的日常役割機能、全体的健康感、社会生活機能、および身体的側面の QOL サマリースコアとの間に負の関連を認めた ($p < 0.05$)。透析患者において唾液量分泌低下は HRQOL と関連することが示された。

索引用語：Quality of Life, 唾液分泌量低下, 疫学

口腔衛生会誌 67 : 64-69, 2017

(受付：平成 28 年 8 月 16 日 / 受理：平成 28 年 9 月 27 日)

緒 言

糖尿病性腎症の増加などを背景に、わが国の維持透析患者数は 2011 年には約 30 万人となり、その数は現在でも増え続けている^{*1}。これまでの研究から透析患者では口腔の問題を多く抱えていることがわかっている。又賀は透析患者 282 名を対象とした調査を行い、82% に口腔乾燥経験を認めたと報告している¹⁾。また Teratani らは糖尿病血液透析患者と健常対照群との比較から、透析患者では刺激時唾液分泌量が有意に低下していることを報告している²⁾。

一般に、口腔の問題は慢性的に経過し直接摂食行動に関わるため、患者の quality of life (QOL) への影響が大きい。地域在住高齢者あるいは糖尿病など歯科と関連が深い慢性疾患患者において口腔の問題が健康関連 QOL (health related QOL: HRQOL) に影響していることが過去の研究から明らかとなっている³⁻⁵⁾。

包括的 HRQOL 尺度の代表的なものに MOS Short-Form 36-Item Health Survey (SF-36) がある⁶⁾。QOL は文化や宗教、生活習慣などの因子の影響を大きく受けるため、HRQOL 尺度はそれを使用する国ごとに信頼性、妥当性を検討する必要があるが、日本語版 SF-36 はその信頼性、妥当性において計量心理学的に十分な特性をもつ尺度であることが証明されている⁷⁾。

口腔の問題が頻発する透析患者において、口腔の問題と HRQOL の関連を検討した研究はほとんど行われていない。

そこで今回われわれは、SF-36 を用いて透析患者における唾液分泌量低下と HRQOL の関連について検討することとした。

対象および方法

1. 対象

2008 年 5 月から 7 月に福岡県内の透析専門病院にて

¹⁾九州歯科大学地域健康開発歯学分野

²⁾九州歯科大学クリニカルクラッシュ開発歯学分野

³⁾新潟大学歯学部総合病院口腔リハビリテーション科

⁴⁾松本歯科大学口腔細菌学講座

^{*1}日本透析医学会統計調査委員会：図説 わが国の慢性透析療法の現況 (2013 年 12 月 31 日現在), <http://docs.jsdt.or.jp/overview/> (2015 年 11 月 13 日アクセス)。